

2015（平成 27）年度
武蔵大学 FD 活動報告書

刊行にあたって

山崎 哲哉（武蔵大学長）

武蔵大学のFD活動は、2000年に「授業評価アンケート」によってスタートし、本年度で16年目を迎えることになる。最初の10年間は、授業評価アンケートを中心に学部毎に報告書を作ってきた時期と言ってよい。

2010年に「武蔵大学におけるFD活動の基本的方針と課題」がまとめられ、FDを「教育改善活動の総体」と定義した上で、FD・SD活動を「大学経営の中核的課題」として位置づけ、「従来の取り組みの前進点を確認し革新しつつ継承する」とともに、「学部等が主体的に関わる全学的推進体制を整備」して、「学生・教員・職員の参加体制を構築する」ことの5点が確認された。そして、同年度から全学的な活動報告書がまとめられるとともに、FD研修会、学生参加によるFDフォーラム、大学院FD懇談会、他大学の先進的なFD活動の調査及びその報告会、ベストティーチャー賞など、さまざまな取り組みが行われてきた。これらの活動は、2014年度に実施された大学基準協会の認証評価においても一定の評価を受けている。

今年度は、FD活動の成果をカリキュラム改善等に迅速に生かし、PDCAサイクルを確実に回すことを目的に、FD委員会とFD実施委員会に分かれていた組織を一元化するとともに、FD委員会のメンバーに教務課長を加える組織改革を実施した。これにより、授業評価アンケートやFDフォーラム等の結果が、直接的に教務事項の改善に結びつくことが期待されている。

また、従来からの東京四大学の交流を発展させる形で、甲南大学と学習院女子大学を加えて「六大学における合同FD・SD等の実施に関する包括協定」（巻末に掲載）を締結し、個別の大学の枠を超えたFD・SD活動の取り組みを開始した。

さらに、2014年度末に導入された「授業収録配信システム」の活用についても、教務部長をリーダーとしたワーキンググループを作り、複数のタイプの実験的な録画が試みられた。

本報告書では、これらの取り組みの紹介に加えて、本学が近年展開している新しい教育実践についてFD的観点からまとめられており、本学におけるFD・SD活動をさらに展開するために本報告書を有効にご活用頂ければ幸いである。

2015 年度活動報告

清水 敦 (2015 年度 FD 委員長)

本学では FD 活動の実施内容や結果を記録・点検するために、2010 年度から毎年度、本冊子(『武蔵大学 FD 活動報告書』)を作成している。FD 活動の内容の詳細は以下の各項目を参照していただくこととし、ここでは掲載順に本年度の FD 活動の概要を簡単に述べることとする。

第 I 部では、後に述べる授業評価アンケート以外の次のような主要な諸活動が取り上げられている。

「FD 研修会」は、FD に関する理解を深め、本学における FD 活動の向上に資することを目的として、外部から講師を招いて毎年実施している研修会である。今年度は、関西大学の教育推進部において FD 活動を推進されている岩崎千晶先生に「授業設計とシラバスを考える」というテーマでご講演をいただいた。シラバスの内容の充実とその活用の推進は、教育の質向上を図るうえで重要な柱となるものであり、具体的な方策を含めてシラバスに関する有益なお話を伺うことができた。またこの研修会には、本学の教職員だけでなく、学習院大学と成蹊大学の教職員の方々もご参加いただいた。他大学の実践例を知るなど大学間の情報共有は、FD 活動を推進するうえで不可欠である。このような協力関係が今後ますます発展していくことを期待したい。

「FD フォーラム」は、学部生が授業改善に関する提案を行い、これについて学生・教職員間で検討を行うというものであり、毎年度実施している。本年度も、各学部の学生がそれぞれプレゼンテーションを行い、授業やカリキュラムなどに関する現状の問題点の指摘や改善の提案を行った。そしてその後、これらの学生と教職員との間で活発な討議が行われた。本年度もその内容は充実したものであったといえる。ただし、このフォーラムについては、実施の時期をどうするかという課題が残った。昨年度までは授業・試験や入試が終了した時期に実施していたが、本年度は、なるべく多くの教員の参加を促すなどの目的で 11 月末に行った。しかしこの時期は、人文学部と社会学部の卒業論文等の提出期限や「ゼミ大会」の直前であり、提案を行う学生を募るうえで制約が少なくなかった。

「大学院 FD 懇談会」は、大学院に関する FD 推進のために毎年度実施されているものである。学部教育については、以前から授業評価アンケートが行われてきたが、大学院においては、1 授業当たりの学生数が少ないなどの事情があり、こうしたかたちで学生の声を反映させることが難しい。そこで大学院で学ぶ学生の代表と教職員との間で懇談会を開催し、教学上の問題や学習環境にかかわる問題などについて学生の要望・意見を聞き、本学の大学院教育の改善を図ろうとしている。大学院に関する FD 活動には解決すべき課題が少なくなく、そのあり方は今後さらに検討が加えられるべきであろうが、こうした意見交換の場はこれからもその柱のひとつとなりつづけるであろう。

大学全体として実施しているもの以外に、学部独自に行っている FD 活動もある。本冊子では、人文学部における FD 活動として、クリッカー活用などの試みについて紹介・報告が行われている。

また第 I 部の最後の部分では、FD 活動に関するこれ以外の 2 つの取り組みを紹介している。まず、授業時間以外に学生が講義の内容を視聴できる授業収録配信システムの試験的な導入が行われているが、この活用に関する報告がなされている。さらに、学外で実施される研修会に

についても、参加した教員による報告が行われている。

第Ⅱ部は、「学生による授業評価アンケート」の内容や分析結果の報告である。授業評価アンケートは、本学におけるFD活動のうち最も早くから実施されているもので、その開始は2000年度に遡る。本学では以前は、前学期・後学期それぞれにおいて、例外的なものを別にして全科目を対象にアンケートを実施していた。その後、前学期のみの実施としたが、本年度からは前学期に実施した上で、前学期に授業を担当しなかった教員の科目のみについて後学期にアンケートを実施する方式に改めた。各授業科目のアンケート結果は各々の担当教員に伝えられるが、それ以外に、カリキュラムの改善等に資するために、全学の合計、学部ごと、外国語科目、総合科目、その他に分けて集計結果を取りまとめ分析している。

第Ⅲ部は、「創造的な教育実践」と題されており、大きく分けて「ゼミの武蔵」の実践と、グローバル化への取り組みの2つからなっている。ここで紹介されているものは、狭義のFD活動ではないが、本学が近年行っている新たな教育実践である。このうち前者は、3学部の学生が協働して行う課題解決型のゼミナール授業である「学部横断型課題解決プロジェクト」と、各学部がゼミナール活性化のために実施している「ゼミ大会」、「卒業論文報告会」、「シャカリキフェスティバル」である。また後者では、「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム」が紹介されている。これは経済学部の学生を対象として新たに実施されたもので、ロンドン大学と武蔵大学の2つの学士号を日本にいながら4年間で取得できるプログラムである。

最後に第Ⅳ部として、会議記録、事業報告、関連規程を掲載した。関連規程には、2015年6月1日に学習院大学、学習院女子大学、甲南大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学の6大学で締結した「六大学における合同FD・SD等の実施に関する包括協定」を掲載している。この協定により、本学のFD・SD活動の取り組みがさらに活発化されることであろう。